



おがさわら

議会だより

第 128 号



ワクワクドキドキ、かわいいこどもたち。ようこそ母島保育園へ！

議案審議	2
予算特別委員会	4
一般質問	6
委員会報告	10
議員レポート	12

池田 望議長が表彰されました

2月8日に開催された「全国町村議会議長会第69回定期総会」において、村議会議員として議会の運営及び地域の振興発展へ特に顕著な功労者であると、池田 望議長が表彰を受けました。



スマートフォンから見やすい
デジタル版議会だよりはこちらから
<http://www.gijiroku.jp/ogasawara/>

平成30年度一般会計当初予算は前年度比2億8387万円減の42億76万円で提案され、全会一致で可決。そのほか8つの特別会計予算及び議案等35件が提出され、これらについても全会一致で可決しました。

補正予算

決算見込みにより各事業の予算不用額が計上されたため、一般会計で1億6408万円など、全体で1億9631万円を減額しました。

条例改正

給与改定

人事院勧告に基づき国家公務員の給与等が改定されたため、村職員給与等に関する規定についてもこれに準じた改正をしました。

国民健康保険の制度が変わります

町村単位で運営していた国民健康保険が、平成30年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、制度の安定化を目指します。それに伴い村の関係条例文、また国民健康保険税額の改正を行いました。

介護保険料額が変わります

平成30年度から32年度までの保険料の額が決定しました。被保険者の負担能力に応じて9段階の保険料額設定で、基準となる第5段階の保険料は月額3,374円(前期より△1,266円)となります。

消防団の定数が増えます

小笠原村消防団の定数を60人から93人に増やしました。

建設発生土処理手数料の改定

建設発生土置き場を適正に維持管理するため、864円/m³から1,620円/m³へ処理手数料の額を改定しました。

同意

固定資産評価審査委員会委員の選任

小高常義氏、菊池聰彦氏、金子 隆氏

教育委員会委員の選任

佐藤文彦氏、鈴木直子氏、綱島 修氏

訃報

大澤 彰元村議会議員が、去る2月19日逝去されました。

大澤 彰氏は、平成15年に初当選、平成23年まで2期8年務められ、村政発展に多大な功績を残されました。謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

池田 望議長出張報告



月 日	訪問先	出張の用務
1月16日から17日	千葉県長生郡長生村議会	先進町村議会調査、意見交換 (東京都町村議会議長会主催)
2月13日	ヤマト運輸株式会社	大型家電等の配送について、意見交換、要望活動 (同行者 一木重夫議員、稲垣 勇議員)
	小笠原諸島振興開発審議会	会議出席
2月15日	東京都町村議会議長定期総会	会議出席
2月16日	松原仁衆議院議員	村政課題等について情報・意見交換 (同行者 議員6名)
	東京都島嶼町村会・ 島嶼町村議会議長会合同会議	会議出席
2月19日	石原宏高衆議院議員	村政課題等について情報・意見交換 (同行者 議員6名)
2月20日	石井啓一国土交通大臣	小笠原諸島振興開発特別措置法の改正・ 延長に関する要望活動 (同行者 村長)
2月21日	東京都、東京都議会議長及び 副議長、東京都議会各会派	
	造幣局さいたま支部	小笠原諸島復帰50周年記念貨幣打初め式 (同行者 村長)
2月23日	小笠原海運株式会社貨物部	大型家電等の配送について、情報・意見交換

村長から平成30年度の予算案が提出されたことを受け、村議会では予算特別委員会を設置し、2日間にわたり皆様から納めていただく税金の使い道を審査しました。その結果、すべての予算案を提案どおり可決しました。

30年度のおもな事業

返還50周年記念事業に・・・・・・・・・・・・・・・・1億2700万円

防災無線の更新に・・・・・・・・・・・・・・・・2億5604万円

第2原水調整池整備工事（掘削）・・・・・・・・4449万円

歳入

基地交付金 ▶7069万9000円

問 硫黄島に視察に行った。アンテナ施設の設置をしていた。基地交付金の対象施設に入ると考えているが、いかがか。（一木）

答 防衛省事業の硫黄島のレーダーサイト施設及び局舎の新設工事は48億円の契約と聞いている。当該施設も交付金の対象として算定される見込み。（総務課長）

村民税 ▶2億8187万9000円

問 昨年度と比べ1700万円の増収。村の経済が良くなっている形の表れと見るが。村長の所見は。（池田議長）

答 最終的には決算で見ることとなるが、経済活性化政策の効果が出ているのだろう。（村長）

歳出

地域住宅政策推進事業費▶38万1000円

問 住環境の改善がなかなか進まない。経済政策も大事だが、生活の向上についても考えてほしい。（一木）

答 29年度、島全体の住宅政策の方向性を調査した。調査結果を整理したうえで個別の具体的事業の検討を進める予定。（企画政策室長）

ふらっとハウス運営経費▶815万8000円

問 築40年ほどの施設。改修工事等は建物の保存状況を見極めながら実施すべき。今後の計画は。（杉田）

答 築年と言うと近隣の父島保育園も同様。旧村民会館跡地も含め、福祉的な用途で一体的な活用を考えていきたい。（村民課長）

ドローン購入、受講料▶69万1000円

問 災害時の利用も考えてほしい。（一木）

答 光ケーブル網の管理。災害時の利用も今後考えている。（総務課長、副村長）

シロアリ対策事業費▶3629万5000円

問 国の外来植物対策事業の、アカギ駆除。母島では切株や伐採木を現場に残してあるところにシロアリが巣を作っている。薬剤散布等できないか。母島はシロアリ撲滅を旗印に掲げている。対策を。（稲垣）

答 関係省庁との連絡調整会議の中で、最低でもモニタリングの実施及び駆除の実施を村から申し入れているが、解決策はまだ示されていない。（環境課長）

① 遊歩道危険木除去▶80万円

② 扇浦遊歩道地質調査・設計▶339万3000円

問 それぞれ実施箇所は。（清水）

答 ① 千尋ルート。（産業観光課長）
② 扇浦の都道から小笠原神社の参道。勾配を均等にする形で設計予定。（産業観光課長）

硫黄島訪島事業経費▶2138万8000円

問 例年どおりの事業を予定しての予算か。（鯨江）

答 現在様々な課題があるが、実施する方向で予算計上している。（総務課長）

宅地造成事業特別会計▶442万1000円

問 扇浦分譲地内の沈砂池はまだ必要か。埋め立ててはどうか。（杉田）

答 現在も大雨時には相当の雨水が貯まっていると住民の方から聞いている。機能的に残すべきもの。埋め立ては現状考えにない。（建設水道課長）

問 沈砂池的な要素を満たしながら埋める等の方法もあると考えている。害虫の大量発生や、特に子どもが入り込み、転落する危険などを考えると、周辺住民が被る被害を取り除くことを前提に考えてほしい。（杉田）

答 今後担当課と調整、検討していきたい。（建設水道課長）

平成30年度予算特別委員会 委員長報告（意見抜粋）

- ①子育て支援、障害（児）支援に関するニーズの増加には、着実な対応を。
- ②新たな財源確保についてあらゆる可能性を模索していただきたい。
- ③契約不調は、当村にとって重要な問題。予算執行を滞りなく進められたい。
- ④老朽化した各施設の補修と更新は、防災の観点からも重要な課題。優先順位を見きわめ、適切な手立てを確実に講じられたい。
- ⑤毎年実施してきた硫黄島訪島事業を速やかに復活させるよう努力されたい。

清水良一議員



来年度の小笠原エネルギービジョンについて

清水議員 ①所信と具体的施策は。②現状でできること、できないことは。③優先度の変化は。④カーボンマネジメントの実施結果は。⑤太陽光の発電コストは。⑥再生可能エネルギーの比率の推移は。⑦島民の勉強会は実施したのか。⑧都や東京電力の考えは。⑨扇浦交流センターの蓄電池の検証は。⑩来年度の予算は。

村長 ①一足飛びには実現できない。検証、整理の上、現実的な優先度の確認が肝要。

環境課長 ②太陽光発電の導入や更新は検討できるが、そのほかは着手できる状況にない。③短期目標、中期、長期とも変化はない。④庁舎の省エネルギー運用は評価された。太陽光発電は改修や保守点検が必要。⑤おおよそ1 kWhあたり100円程度。⑥東電の発電量との比で平成26年度が0.55%、28年度が0.7%程度と微増。⑦議論の前に庁内で整理が必要。⑧昨年、国の機関も含め情報交換し、方向性は理解されたと思う。⑨災害時の備えの機能は果たしている。⑩庁内の検証、調整が主で、特段の計上はない。

小笠原諸島返還50周年について

清水議員 ①村長の思いは。②平和都市宣言の世界への発信を。③宣言の外国語化を。

村長 ①記念の節目を全村で祝う。歴史と伝統を振り返り、村の魅力を再認識し、平和の尊さを通じ郷土の誇りと愛着を高めてほしい。②歴史を知らない新しい村民と、国内も含め島外に発信したい。③少なくとも英語化は考える。

一木重夫議員



障害児の福祉と教育について

一木議員 障害児への対応で新たな予算上の措置もあってもいいのではないか。

村民課長 どうぞ内地の施設へということではない。予算も適正な措置をしていきたい。

一木議員 ゆりかごから墓場までのケアプランが必要ではないか。愛を持って取り組んで欲しい。

村民課長 幼児から大人まで切れ目のない支援を実践していきたい。

一木議員 保護者の最終的な目標は子供の自立。自分が死んだ後でもこの子が、自立して生きていけるような、機能訓練、教育をしたい。地域全体の互助と連帯が必要なのではないか。

村長 一朝一夕にいくことではないが、できるだけのことをしたい。これが目指すところの本音。

一木議員 小笠原で障害児のプログラム提供ができるようにしたい。でも、どうしてもかなわない場合、内地に行ってこいと、背中を押してあげられる小笠原の社会でありたいと願う。

村長 一つの課題として今提言を頂いたと受けとめている。

小笠原諸島振興開発特別措置法について

一木議員 来年度の延長・改正へのビジョンが見えない。何をどう変えたいのか？

村長 成立規定の「復帰に伴い」の文言は残す。交付金は既存事業の枠で必要なものを求める。法の骨格は現行のまま。

鯨江 満議員



硫黄島訪島事業について

鯨江議員 去年は訪島事業ができなかった。今後の実施に向けての進捗は。

総務課長 去年は渇水のほか、新おがさわら丸の排水量が現地のブイの能力を超え係留できず、断念となった。その後、ブイの取りかえも難しいということで、小笠原海運に錨泊の検討を要請。条件提示を受け、検討・調整を進めている。

鯨江議員 条件の内容は。

総務課長 錨泊する海域の水深や底質等の詳細な海図が必要で、水深が10メートル以上で、かつ投錨地点が10メートル以上25メートル以下であること、現地の海上自衛隊の係留ブイを補助的に使えること、風は南から南南西秒速10メートル以下、波高0.5メートル以下であること等。

鯨江議員 小笠原海運のやる気はどうか。船も新しくなり、乗客数も多く好業績が見込まれるが、なぜこの訪島事業はできないのかと思う。

村長 おがさわら丸の新造に際し、硫黄島墓参は大丈夫との返事を得たが、こうすればできるというハードルが高く、大変厳しい状況にある。何とか墓参事業を続け、次世代の人に引き継げるよう解決策を求め、交渉を重ねたい。

副村長 10月に小笠原海運と話し合ったが、やる気の問題ではなく、定期航路に支障がないことと、外洋に面したところでの安全性に気を遣っているということだと思う。船には硫黄島を前提に下部に出入り口も設けたが、能力を超えると発覚したのは完成してからだ。自衛隊にはブイの補助使用を問い合わせているが、底質などの条件もあり、非常に厳しいのは事実だ。

安藤重行議員



障害児・障害者の課題について

安藤議員 ①保育園の受け入れや地域の協力等の備えは。②専門職確保が急務。③共生はコーディネート役が必要。④学校の支援体制は。⑤地域で幸せに暮らせる社会を。⑥就学時、教員らと協議の場は。⑦内地の専門職との連携は。⑧学校施設・設備に配慮を。⑨十分な補助支援員の配置を。

村民課長 ①保育園は両島とも受け入れている。乳幼児は出生直後から保健師がかかわる。放課後支援や居場所づくりは方向性を検討中。地域の協力体制は本村の課題。②人材育成も含め考えたい。③障害者地域自立支援協議会を活用し、当面福祉係が務める。

教育長 ④一人一人のニーズを把握し、困難の改善や克服を目指す。就学時は個別相談も行う。⑤事例ごとに適切な対応と判断を行う。

教育課長 ⑥学校や保育士、教育委員会等による小笠原村教育支援委員会がある。⑦東京都特別支援教育推進室に協議や相談をする。⑧成長や変化に合わせた配慮は重要。⑨学校の状況に合わせ対応。

エネルギービジョンにおける今後の具体的な課題について

安藤議員 ①所信や予算書では見えない村長の思いを聞きたい。②電気自動車等の導入奨励は検討したか。③ビジョンの展開にスピード感がない。

村長 ①施策は飛躍的には進まない。予算がないから何も考えていないわけではない。

環境課長 ②電力が化石燃料発電である以上、導入だけでは環境施策だとは言いがたい。③災害対策等、進展もある。

杉田一男議員



観光振興について

杉田議員 観光局は平成25年の移管後、それなりの成果は上げているが、島内での認知度はかなり低いと思われる。前身のツアーデスク時代にあった目標設定がないからとも思うが、村長の肝いりで始めた事業であり、今後のあり方をどう考えているのか。

村長 観光局は、エコツーリズムを基軸とした観光PRの本土での拠点。村内の観光関係者や村民にご理解いただくため、毎年報告会を両島で実施し、観光協会の会報にも毎月活動内容を掲載。機動力を発揮した活動は、全国の離島の皆様から高い評価をいただいている。目標は、世界自然遺産登録後の乗船客増を高い水準で維持・平準化するため、より具体的な設定を指示した。今後も来島客の増加で地域経済を活性化させ、暮らしやすい社会づくりに貢献したい。

杉田議員 ①観光局には観光客の地産地消を進め、1次産業との連携を強化する役割も期待したい。②産業観光課等との調整は。③職員3名は観光協会からの出向と単年度契約。運営形態の再考が必要では。④観光協会や商工会等、他団体との連携の円滑化を。

村長 ①来島者が増えれば地産地消が増える好循環となり、おのずと1次産業と連携ができる。②体制からすると事業量は多いかもしれないが、待遇の話は聞いていない。意見として伺う。③観光は総合産業で、各関係団体との連携は不可欠。配慮したい。

産業観光課長 ②内地のイベントに農協に出してもらうなどしている。現場に立ち会うことで、ニーズを生産に反映できるのでは。

稲垣勇議員



シロアリの現状について

稲垣議員 母島のシロアリの現状と、今年度の対策は。

建設水道課長 島内のイエシロアリ営巣は一旦駆除が完了したと考えられるが、蝙蝠谷仮置き場では昨年6月の群飛調査で周辺域へ分布の兆候が見られ、9月の対策事業では置き場から数十メートル離れた地点で小集団1つを駆除。ほかにも残っていると考えられ、重点的に調査・駆除を行う。北部域では6月調査で多くの羽アリを観測、特に二十丁峠以北に多く、北村小学校跡付近では大群飛の状態。外来植物駆除で山に残された駆除木への食害が多く、事業主へ駆除の実施を要請している。そのほか、静沢を中心にヤマトシロアリの北上拡散も確認。まずは蝙蝠谷のイエシロアリ終息と、北部域での防衛ラインの押し戻しを目指す。

稲垣議員 ①島民への周知は。②村長の見解を伺う。

建設水道課長 ①チラシを作成し、支庁や建設業者に配布。同等のものを村民にも配布する。シロアリ報告会も継続して行い、しっかり島民に現状を把握していただきたい。

村長 ②集中した対策が必要。手遅れにならないよう、国や都と協力し進めたい。小笠原諸島振興開発審議会や地域連絡会等の場で発信し、粘り強く早急な駆除を要望する。

稲垣議員 ③ミカンコミバエの根絶で行ったトラップ調査はやっているか。④昨年、集落にもシロアリが飛んでいるという答弁があったが、現在はどうか。

建設水道課長 ③5月から6月にかけて両島で実施。母島では全40カ所程度。④今年度に限っては集落内ではほとんど見られず、数頭程度。

平成30年第2回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
6月6日（水）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
6月7日（木）	午前9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。
またテレビ11チャンネル、小笠原村公式ウェブサイト内ライブ配信システムで中継放送を行っています。ぜひご覧ください。

会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。

- 村役場議会事務局
 - 地域福祉センター図書室
 - 母島支所
 - 母島図書室で閲覧できます。
- また、パソコンやスマートフォンなどで
見ることもできます。
小笠原村公式サイト→議会事務局
→会議録で

会議録も読んでみてね！
大型家電配送のお話も、
総務委員会の終わりの方
で出てくるよ～



編集後記

今定例会でも復帰50周年の様々な予算審議が行われました。

小笠原諸島の返還は昭和43年に交わされた「米国との小笠原返還協定」に基づいています。一方、協定を交わした同じ日に、三木外相が「硫黄島の記念碑に関する書簡」を米国全権大使に渡したことはあまり知られていません。日本政府は「海兵隊員のための記念碑が摺鉢山に存置され、合衆国の関係者が立ち入ることができる」事を約束しました。海兵隊にとって硫黄島は聖地なのです。

今でも横田基地と同規模の米軍基地が硫黄島にあります。遺骨収集も続けられ、旧島民が帰島できず、農地法も施行されず、小作権制度も残ったまま。復帰50周年を迎えても、終わらない戦後が残されています。

一木重夫

★議会だより編集委員

一木重夫

安藤重行★

小笠原諸島返還50周年記念事業

問 記念事業を実施するだけでなく、それをインターネットで情報発信していくことが必要ではないか。
(清水委員)

答 50周年の記念誌は冊子、電子版を作成しセットで村内各世帯に配布の予定。電子版のデータを50周年ホームページに掲載するかは今後確認を取りたい。(総務課副参事)

問 返還記念式典は父島で実施する。母島では行わないか。(稲垣委員)

答 6月30日に父島で式典、翌7月1日に母島と考えているが、現在来賓の渡島手段・スケジュールの調整をしているところ。(総務課副参事)

大型家電の配送

→ P12 議員レポートもぜひお読みください。

池田 望議長から、2月の上京の折、ヤマト運輸本社及び小笠原海運本社を訪問し、要望・意見交換をしてきたことの報告がありました。

現在の大型家電の購入、小笠原への配送がままならない状況について、村民から対応を求めのご意見を多くいただいている。

ヤマト運輸本社には、これまではヤマト運輸が海上運賃等を負担してくれていた。そのおかげで小笠原村民は苦勞なく買い物ができていたことに大変感謝していることをお伝えし、村議会からの要望書を渡した。ヤマト運輸から昨年6月の配送の規格変更等の説明を受け、村民がよく利用するインターネット通販では大型家電が買えない現状を把握し、今後、現地での受け入れ体制、料金設定等整理していくとの回答もいただいた。

小笠原海運からは、事前連絡のうえ、家庭向け大型家電等を海上輸送する対応が可能である旨回答をいただいた。(詳しくは村民だより4月号でお知らせしています)

問 東京から父島までは、おがさわら丸により海上輸送の対応が可能なのことがわかった。ははじま丸は別の運航会社なので、運送料金が上乗せとなる。村として補助体制を取ることとは可能か。(稲垣委員)

答 補助の方法については、必ず色々な意見が出る。ご指摘の件は検討課題とさせていただく。(村長)

● その他の議題…小笠原村の面積について ほか

小笠原航空路開設推進特別委員会 3月9日

一木重夫委員長 清水良一副委員長

12月定例会以降の航空路開設に関する動きについて報告がありました。

国・東京都の動き

(環境大臣定例記者会見)

世界自然遺産登録地小笠原に飛行場を設置することに関し、環境大臣の考えを問われ、航空路の設置主体である東京都に協力をしていく。具体的な相談あれば環境省の立場で真摯に対応する、と回答。

(東京都知事定例記者会見)

医療面から小笠原村には空路の確保が必要との認識、自然環境を守りながら、村と連携しながら検討を進めていく、との発言。

(東京都の動き)

▶航空路調査費は平成30年度予算に1億2000万円（前年度比+1000万円）計上した。

問 6月の記念式典の際には、都知事からどのような話が出るのか。
(杉田委員)

答 これまでの調査結果を踏まえ、東京都として一定の方向性を示していただけるよう要望している。
(企画政策室長)

硫黄島調査特別委員会 3月9日

杉田一男委員長 安藤重行副委員長

硫黄島での訓練や遺骨収集事業について執行部からの報告、また2月14、15日実施の行政視察について安藤重行副委員長から報告がありました。

遺骨収集事業

[執行部報告] 今年度は17柱収集できた。硫黄島北部、米軍コーストガードのあった場所のだいぶ深いところから、16柱（実際は14柱）収集できた。また滑走路下については非常に熱く、防護服を着用しても作業時間は15分が限界。課題はいろいろあるが、滑走路下のより深い部分の探索が必要。（村長、総務課長）

訪島事業

おがさわら丸が釜岩付近で錨泊できる条件を満たすため、現地調査の実施を検討中であるとの報告がありました。委員からは、本事業について早期再開を求める意見が出されました。

～困った！冷蔵庫が買えない！？～

「ネット通販で冷蔵庫や洗濯機が買えない。困った！なんとかして欲しい！」

昨年7月頃から、各村議会議員に村民の要望が相次ぐようになりました。

そこで、家電販売店に聞いてみると「クロネコヤマトの規定が6月に変わった。小笠原にはドライバー1人で運べる荷物しか送れない。」とのこと。

そこで、昨年9月の村議会でこの課題を村執行部と話し合いました。

「クロネコで大型家電が運べなくなり、ほとんどの販売店が島への発送を取りやめるか高額送料となった。どうにかならないか？」

村長は「各方面と情報交換しながら対応を検討する。」と回答しました。

昨年末、ヤマト運輸本社もこの件を課題として捉えている節があることが判明。

そこで今年2月、池田議長、稲垣議員、私の3名が小笠原村議会を代表して、**ヤマト**

運輸の本社を訪問。要望書を手渡しました。担当者からは「離島にも大型家電を配送できるようにする方向で検討している」



ヤマト運輸本社へ訪問した。



ヤマト運輸担当者と情報交換

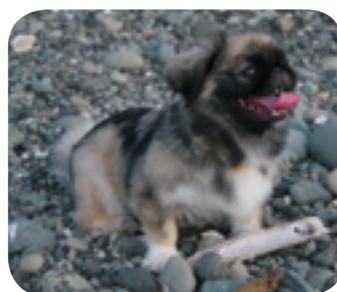
との前向きな回答を頂きました。

一方、現時点で大型家電を小笠原村まで運ぶ手だてを調査するため、池田議長が芝浦の**小笠原海運(株)**を訪問。

「事前に連絡をもらえば、内地の販売店から芝浦に送ってもらい、着払いで父島・母島の港まで送ることが可能」

であることが明らかに。村民だより等でこの運ぶ手だてを村民に広く周知することになりました。しかし、海上運賃は高額。港から自宅までの陸送運賃もかかるため、課題は残されたままです。

小笠原村議会は今後もヤマト運輸本社に働きかけを続けると共に、**運賃の負担軽減**についても各方面に働きかけをしていきます。



GANBATTE～!!